



# 青木新理事長 インタビュー



## 青木乙彦（辰巳屋興業代表取締役会長）

日本自動車部品協会9代目の理事長。1946年8月生まれの66才。慶應義塾大学卒業。69年辰巳屋興業に入社。97年同社社長に就任し、現在は代表取締役会長。趣味は古典芸能鑑賞。

日本自動車部品協会（JAPPA）は5月9日、都内で第44期定時総会を開き、辰巳屋興業の青木乙彦代表取締役会長が理事長に就任した。車齢の高齢化などにより、良質な部品の供給がますます重要になるとともに、JAPPA加盟各社の責任も増してくる。青木新理事長にJAPPAのこれからの取り組みや市場について聞いた。

## ますます重要になる アフターマーケット

——重点的に取り組むことは。

JAPPAは補修部品市場の健全な発展や優良部品の地位向上などを目指して発足しました。具体的には優良部品推奨制度がJAPPAの柱とも言えるものですが、その制度を時代に応じたものに改定し、JAPPAのシンボルとして復活して下さった松村前理事長の功績は大変大きいです。この新しい推奨制度の認知をさらに高めていくことが、事業の中心になります。

現在、準会員66社のうち32社が新制度において推奨企業の申請をされ、認定されておりますが、まずはまだ申請されていない準会員さんに制度をご理解していただき、推奨企業になっていただくことが具体的な活動になります。

それから推奨制度とともに新しい推奨マークの活用も進めていきます。このマークは国内で商標登録をしていますが、海外でも商標登録を進めていく予定です。模倣品

対策は日本のモノづくりの企業あがりの課題ですが、JAPPAでは今年、まず中国で商標登録を行います。

——補修部品市場というものをどのようにとらえていますか。

国内のマーケットは基本的には大きくなるとは思っていません。海外は相当伸びると思います。しかし私はマーケットが大きくなるとか、小さくなるから大変だとか、そういうとらえ方はしたくなくて、大事なマーケットだよ」ということを言いたいのです。

車齢の高齢化が進み、今後ますますアフターマーケットの業界は重要になると強く思っています。いい部品を国内外に供給する、その責任が増してくると思います。

最近の車についても急速に電子化が進み、複雑になってきているからこそ、予防整備や日頃のメンテナンスが重要になってきます。

昨年、トンネルの崩落事故が起きました。事故が起きると大変だと言っただけですが、それでは遅い。新しい道路を作る話はたくさんありますが、今あるものを守備し

て、直して大事に使っていくということも大事なことです。

——マーケットが重要さを増していく中でJAPPAの役割は。

世界中の最終ユーザーに良質なパーツを供給し、安心で安全、快適で便利な車社会を作っていく、その一助となるのが大きな意味での役割で、これからの車社会に大切なものをお届けすることです。

アフターマーケットの中で、JAPPAは大事な業界ですし、我々の業態や流通ルートは非常に有効であることをアピールしたいですね。

補修部品もいろいろある中で、お客様が選べるということが必要ですから、お客様目線に立って優良部品、またJAPPAの必要性を訴えていくことがポイントだと思っています。

——自動車メーカーや大手部品メーカーもアフターマーケットへの関心が高まっていますね。

アフターマーケットはグローバルで見るととても大きく、そして伸びています。OEM中心だった大手メーカーも世界戦略としてアフターマーケットに力を入れ始めて

います。当然、競争が厳しくなりませんが、マーケットが大きくなれば必要が高まります。問屋は在庫機能を持ち、必要な時に必要な分を、必要な形にして、タイムリーにお届けできます。お客様にとって大変便利で、それが問屋の存在価値です。

——最後に抱負をお願いします。

JAPPAは正会員が27社、準会員が66社で合わせて100社近くあります。基本方針として、補修部品業界の健全な発展を掲げていますので、会員皆様のご協力をいただき、優良部品が安心で、安全、快適、便利な車社会に必要な不可欠なものであるということをさらにアピールしていきたいと思っています。総会に出席して下さった経済産業省の潮崎課長補佐が中小企業の現場を見たいとおっしゃっていました、現場を見るといいことは本当に必要です。私自身も現場に出て、JAPPAの役目についてのご要望など聞いてみたいと思います。また全部協さんを通しての情報交換など、交流を深めていければと思います。